

緊急 トップインタビュー

宮城県中小企業家同友会

代表理事 鍋島 孝敏さん(69)

各界のリーダーにコロナ対策を聞くシリーズ。今回は、宮城県中小企業家同友会代表理事の鍋島孝敏さん(69)＝日東インダ会長＝です。



—1000社を超す会員企業は、どこも対応に苦慮しています。

中小は大手と違い、在宅勤務などへの切り替えが難しいところが多いです。それでも社員の暮らしを守り、取引先の信頼に応え続けるには、何とか会社を継続させなければならない。それぞれが悩み抜いた末に、今の事業スタイルがあるのです。事情を知らないまま「どうして店を開けるのか！」などと責めたりする風潮が広がっていることには違和感を覚えます。

一積極的な情報発信を続けています。

国や自治体から支援策が次々発表されていますが、残念ながらその仕様書はど

「地方回帰」強まると予測



れも難解です。同友会はこのようにした文書を平易に翻訳してホームページに公開し、会員以外の方も見られるようにしています。加えて、経営者が一人悩んで孤立してしまうことのないよう、相談窓口も設けています。会の合言葉である「知り合い、学び合い、援(たす)け合い」が今こそ求められています。

—中央より地方、大手よ

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

り中小の時代が来ると訴えています。

大人数が集まる大企業ほど、コロナ禍ではリスクです。都会も同じ。田舎の方が安全なのです。今回の災禍をきっかけに、世の中の「地方回帰」が強まると予測しています。中小はこれまで人の採用でも苦戦してきましたが、これも変わる。就活に挑む学生さんはもちろん、保護者の皆さんにもそうした時代の潮流を理解して、われわれの仲間になってもらえれば幸いです。

information

会員企業27社が出展する合同企業説明会を12日(金)午後2～4時、JR仙台駅前のアエル5階で開く。来春卒業予定の大学生、専門学校生らが対象。事前申し込み不要。連絡先は022(355)2771。

企画・制作/河北新報社営業局